

「聖霊によって建てられる教会」

エペソ 4:1-15

【1】ペンテコステ

ペンテコステとは、ギリシャ語で50を表すことばであり、ユダヤ人たちは過越祭から50日目を「仮庵の祭り」として祝っていた。イエスは十字架の死と復活の後、弟子たちと40日間の時間を過ごし、天に昇られた。そのとき、人々にご自身の霊である「助け主」と呼ばれる聖霊をお与えになることを約束してくださった。この約束の聖霊が与えられたのがペンテコステの出来事である。

【2】召しにふさわしい歩み(4:1)

キリスト者は「召された者」と呼ばれる。それは、キリストが遣わされた聖霊によって私たちをご自身のもとに導き集められたゆえである。召された者は、その歩みの方向を変えられる。新しい命にはそれにふさわしい歩み方があるのである。たとえ同じような生活をしているように見えたとしても、どのような「歩き方」をしているかによって、その人の置かれている位置が明らかになる。主が召してくださったその目的は、神のご計画の中で教会を建て上げることによって、神の栄光を現すことだ(4:12)。

この目的のために、クリスチャンはこの世から召し出され、聖霊の助けによってまことの主を告白し、バプテスマにあずかり、主なる神を「父」と呼ぶ立場に置かれている。だからこそ、霊的に一致するということが当然のこととしてここには記されているのである(4:3)。御霊の一致は人が作り出していくようなものではない。それはすでに与えられているものである。だから、

それを熱心に保つようにと勧められているのである。

私たちの思いや考えにおける一致ではなく、霊の一致を求めなければならない。キリストに従うという信仰のあるところには、必ず御霊による一致がある。そして、御霊の一致を実現させ成長していくためには、2つのことが必要である(4:13)。第一に、「信仰の一致」であり、第二は「神の御子に対する知識の一致」である。自分勝手な前提やこれまでの考え方を捨て、聖書の価値観、教えに親しみ、それに生きるのである。このために、神は教会に賜物を与えてくださった。

【3】御霊の賜物

聖書が賜物と言う場合、それはいつでも神から人への一方的な贈り物という意味がある。しかも、それは人の何らかの功績に対する報酬ではなく、恵みによる無償の贈り物である。何よりも私たちがキリストを信じ、救いをいただいたことそのものが神からの賜物であるのと同じように、さらに御霊がキリスト者それぞれにみこころのままにいろいろな種類の賜物を分け与えてくださって、全体の益のために互いに奉仕させてくださるのである(1コリント 12:4-11)。

神の恵みの賜物は、何らかの方法でキリストを現し、キリストを賛美し、キリストを伝える。与えられた賜物が正しく用いられるなら、キリスト者と教会を建て上げることになる。与えられた神の霊に従って生きる時、豊かに建て上げられていく。そのために、私たちはみことばに親しみ、祈り、聖霊の御声に耳を傾け、みことばに従うのである。主はみこころにかなう願いを喜び導いてくださる。